

県立多治見病院 緩和ケアチーム通信

発行：県立多治見病院緩和ケアチーム 2020年7月号 vol.110

～チームメンバーよりひとこと～

◆臨床心理士・中西詩乃◆

初めまして。4月から緩和ケアチームに加わりました、臨床心理士の中西詩乃です。別に、公認心理師という心の健康問題に対応するため3年前に新設された資格も有しております。

当院では心理検査を行ったり、カウンセリングを行うことを業務としています。昨年度から、緩和ケア病棟でも、気持ちのつらさを抱えておられる患者さんやご家族のお話をうかがい、気持ちの整理のお手伝いをさせていただいております。

病気を患うと、検査・診断・治療と経過が進む中でさまざまな出来事を体験し、その度に様々な心の反応が起きます。病気そのものについてだけでも、いろんな思いが入り乱れるかと思えます。診断や経過に伴う不安や心配は いわずもがな。聞いたことのない医療用語に圧倒され混乱してしまう気持ちに苦痛や身体の機能が低下する不安、選択や判断をしなくてはならないストレス、長い治療期間を過ごすことによって生じる慢性的な疲れ、など…きりがなくらいです。病気そのもの以外でも、仕事や生活上の悩み、医療者や家族とのコミュニケーションの不全感、そして何故生きているのか？など、自分の命への向かい方が問われることもあるかと感じます。

緩和ケアチームでは、様々なスタッフがそれぞれの専門性を活かしながら、患者さんやご家族のこうした心の反応にも応じられるよう努めております。心理士も加わり、時間をかけてお気持ちの負担を、ゆっくりお聴きすることができるかと思えます。話していただくことによって、鬱積していた気持ちが解放されて楽になったり、置かれている状態について自分なりの理解が進んで穏やかさを取り戻せたり、考えが整理されて自分の道が確認できたり、といったことが望めるかと思われます。お気持ちがつらくて仕方がない時、チームのスタッフや心理士にお話しされてみてはいかがでしょうか。



◆がん性疼痛看護認定看護師 PCT 専従・大津陽子◆

テーマ：アニメから考える継続看護について

最近「鬼滅の刃」にすっかり魅せられました。完全徹夜し全話一気に見ました。

その物語のテーマの1つが「継承」と言われています。私も「看護の継承」を大切にしたいと思うようになりました。

緩和ケア病棟へ入院日の申し送り時、前病棟の看護師さんに「引き継いでほしい看護」を聴いています。その想いは緩和ケア病棟でこれから看護にあたる看護師への原動力となります。また、その後の看護の経過を前病棟の看護師に報告することで、「ええ!?そんな事までしてくれたの!」と安堵と喜びの声が上がることがあります。



その声もまた巡り巡って緩和ケア病棟の看護師の喜びとなります。緩和ケアチームのささやかな活動ですが、少しでも役に立ちたいという思いがあります。

今ある看護は患者さんやご家族の思い・状態から看護診断し実施されている看護です。療養の場が変わっても、多くのスタッフの想いや願いが継承された継続看護されています。患者さんやご家族に心強く思ってもらえると嬉しいです。

～令和2年度の緩和ケア勉強会について～

令和2年度の緩和ケア勉強会は、当院の会議等開催制限が解除されてから再開する予定です。

申し訳ありませんが、もうしばらくお待ちください。

